

山内一豊とその妻

「山内一豊とその妻」の話が、戦前の国定教科書に紹介されておりました。その逸話をそのまま当時の文字で掲載します。

山内一豊が織田信長の家来になつたばかりの頃、よい馬を賣りに来た者がありました。見た人は皆ほしいとは思ひましたが、價が餘り高いので、誰一人買はうといふ者がありません。馬の主は馬を引いて歸らうとしました。一豊もほ



しいほしいと思ひながら、家へ歸つて、「あゝ、金が無いから仕方がないが、武士としては、どうかしてあのくらゐな馬を持つて見たいものだ。」とひとり言をいひました。妻はこれ聞いて、「その馬の價はいか程でございます。」「金十兩。」妻はしばらく考へてみましたが、「それだけのお金ならば、私が差上げます。」と言つて、かみ箱の中から十兩の金を出して来て、夫の前に差出しました。一豊はおどろいて、「これはどうした金か。これ程貧しい暮しをしてゐながら、こんな大金が有るのに、なぜ今まで話さなかつた。」「さやうでございます。これは私がこちらへ參る時、『夫の一大事に使へ。』と申して、父が渡した金でございます。うはさに聞きますと、近い中に京都で馬揃へがありますとのこと。定めて皆様は御じまの馬に乗つて、お集りのこととございませう。あなた様にもその良い馬にめして、御主人のお目にとまるやうになさいます。」一豊は妻に禮をのべて、その馬をもとめました。やがて馬揃への日となつて、一豊の馬ははたして信長の目にとまつて、「あゝ、良い馬、名馬々々。誰の馬か。」と尋ねました。家来の者が「これは一豊の馬でございます。」と言ひますと、「日頃貧しい暮しをしてゐる一豊が、よくもかういふ良い馬を買ひもつた。見上げた志の者、りつばな武士。」と、信長は大そう感心しました。

最寄りの駅及び インターチェンジの ご案内

鉄道 JR東海道本線 木曾川駅
名鉄名古屋本線 新木曾川駅
高速道路 東海北陸自動車道 一宮木曾川IC



一宮市観光協会

〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL / 0586-28-9131・FAX / 0586-73-9135
[URL] <http://www.138ss.com/>



信長、秀吉、家康の三英傑に
巧みに仕えた初代土佐藩主

一宮市木曾川町出身の戦国武将

山内一豊



献上土佐山内家宝物資料館所蔵

一宮市観光協会